

令和 7 年度 JKA 補助事業成果報告書: 中山間地域における若者の意識変容と地域貢献意欲の醸成に関する実証的分析

序論

本報告書は、静岡県立天竜高等学校が令和 7 年度(2025 年度)に実施した、公益財団法人 JKA のオートレース補助事業に基づく一連の活動成果を公文書形式にて総括するものである。本事業では、「水窪・天龍村ツアー」および計 3 回の「天竜区の未来を考える若者会議」を通じ、参加者の意識変容を多角的に検証した。

本稿では、特に「高校生」と「高校生以外(一般住民、教職員、卒業生等)」の属性別にデータを分離し、それぞれの視点から中山間地域への関心、自己効力感、および社会的責任感の変容を分析する。これにより、次世代育成と地域コミュニティ活性化の相乗効果を明らかにする。

第 1 章: JKA 補助事業の概要と実施体制

1.1 事業の目的とアピールポイント

本事業は、中山間地域の課題解決に若者の視点を導入し、主体的な「地域人財」を育成することを目的とする。JKA 補助金の活用により、地理的・経済的制約を克服した実践的な体験学習の場を提供した。

1.2 補助事業の活用実績

補助金は、交通費、宿泊費、活動資材等に充当された。これにより、高校生と多様な社会人が対等に議論するプラットフォームが維持された。

第 2 章: 水窪・天龍村ツアーにおける属性別分析

2.1 参加者の属性構成(回答数)

- 高校生: 7 名(二俣校舎)
- 高校生以外: 1 名(卒業生)

2.2 質問別回答傾向と意識変容(定量的比較)

評価尺度は「1:非常にそう思う/満足」～「4(または5):思わない/不満」。

質問項目	高校生(平均)	高校生以外(卒業生)	分析
地域の歴史・文化への関心	1.14	1.00	両属性共に極めて高い関心を示した。
多世代交流(サマースクール支援)	1.43	2.00	高校生は「教える立場」での効力感を強く実感。
中山間地域に魅力を感じるか	1.14	1.00	現場体験が全属性の魅力を再発見させた。
将来住み続けたいと思うか	2.14	2.00	魅力は認めつつも、定住には慎重な姿勢が共通。
高校生の声が重要だと思うか	1.14	1.00	高校生の存在意義は全属性が一致して高く評価。
活性化への興味が高まったか	1.14	1.00	ツアーによる啓発効果は属性を問わず最大級。

2.3 定性的データの属性別傾向

- 高校生:「初めて知った歴史への感動」や「自然の開放感」など、**発見と感銘**が記述の中心であ

る。「補助金に対する責任」を明記する傾向が強く、支援を受ける側としての自覚が芽生えている。

- **高校生以外(卒業生):**「一人暮らしの具体像(家賃や移動)」など、**生活の現実味**に着目した記述が目立つ。また、後輩である現役生の活動を客観的に評価し、信頼構築の重要性を指摘している。

第3章:第14回「若者会議」の属性別分析

3.1 参加者の属性構成

- **高校生:** 15名(二俣、春野校舎)
- **高校生以外:** 3名(教職員、行政担当者)

3.2 質問別回答傾向

質問項目(スコア1の割合)	高校生	高校生以外
愛称「オクハマ」検討ミッションの評価	60.0%	100.0%
中山間地域に魅力を感じているか	26.7%	66.7%
高校生の声が重要だと思うか	73.3%	100.0%

活性化への興味が高まったか	66.7%	100.0%
---------------	-------	--------

3.3 属性別考察

高校生は愛称検討というクリエイティブな作業に意欲を示す一方、地域自体の魅力については「まだ模索中」の層が一定数存在する。対して、高校生以外（大人側）は、若者のアイデアが地域に及ぼす影響力に高い期待を寄せており、高校生の参加そのものが大人の活性化意欲を喚起している。

第4章：第15回「若者会議」の属性別分析

4.1 参加者の属性構成

- 高校生：15名（二俣、春野校舎）
- 高校生以外：2名（教職員）

4.2 質問別回答傾向

質問項目（スコア1の割合）	高校生	高校生以外
テーマ別交流会の評価	53.3%	100.0%
将来住み続けたいと思うか	13.3%	0.0%

高校生の声が重要だと思うか	73.3%	100.0%
活性化への興味が高まったか	53.3%	100.0%

4.3 属性別考察

第15回では、商店街店主との対話が含まれた。高校生の自由記述からは「店主によって考え方が違うことを知った」という社会の多様性への気づきが見られた。教職員側は、こうした対話が教育的価値（コミュニケーション能力育成）に直結していることを高く評価している。

第5章：第16回「若者会議」の属性別分析

5.1 参加者の属性構成

- 高校生：14名（二俣、春野、佐久間分校）
- 高校生以外：6名（地域住民、教職員）

5.2 質問別回答傾向

質問項目（スコア1の割合）	高校生	高校生以外
PR案座談会の評価	78.6%	66.7%

中山間地域に魅力を感じているか	35.7%	66.7%
将来住み続けたいと思うか	21.4%	50.0%
活性化への興味が高まったか	71.4%	83.3%

5.3 属性別考察

地域住民の参加が増えた第16回では、高校生側が「大人と協力して考える貴重な機会」として、自己効力感を大きく向上させた。一方、一般参加者(大人)からは「チラシの広報不足」など**運営面への建設的助言**が出されており、単なる見守り役から「共に事業を作るパートナー」としての意識変容が見られた。

第6章:統合的意識変容分析

6.1 高校生:主体的関与と自己効力感の確立

「天竜区の未来を考える若者会議」において、第14回から第16回にかけてのアンケート結果を比較すると、継続して参加している高校生の意識には、主に「自己効力感の向上」と「対話対象の広がりによる認識の深化」という2つの大きな変化が認められる。

まず、定量的データにおける変化として、地域課題の解決に対する「自己効力感」の向上が挙げられる。第14回時点では、課題解決への貢献意欲(質問8/4)に対し、スコア「2」や「3」を選択する生徒が散見されたが、第16回では「3回目以上」の参加となる中心メンバーの多くがスコア「1(非常にそう思う)」を選択するようになっている。これは、会議での議論やPR案策定などの実践的な経験を重ねるこ

とで、自分の行動が地域に影響を与えられるという自信が深まった結果と言える。

次に、定性的データからは、地域住民との関わり方の変容が読み取れる。

(第14回)：講演者の話を聞き、地域の愛称を考案するといった「アイデア出し」の段階が中心であった。

(第15回)：商店街の店主らと対面し、同じ地域内でも立場によって活性化に対する考え方が異なるという「多様な価値観」を認識する段階へ進展した。店主ごとの感じ方の違いを知ったことを「貴重な体験」と記述がある。

(第16回)：一般住民との座談会を通じ、「地域の方々と協力して考える」という「協働」の意識が明確になっている。地域の一般の方々と話し合うことを貴重な機会と捉え、協力してPR案を考えられたことを成果として挙げている。

また、将来の定住意向(質問6/2)については依然として慎重な姿勢を示す生徒も多いものの、継続参加者の中には、第16回時点で「住み続けたい」という意向に最も肯定的なスコアを付ける者が現れるなど、活動を通じた地域への愛着の深化が、具体的な将来設計に影響を及ぼし始めている傾向が見取れる。

6.2 高校生以外:若者を通じた地域再評価

教職員や住民は、高校生の活動を支援することで、地域が持つ「若者を惹きつける力」を再評価している。特に地域住民において、「意見を出すだけでなく実行したい」という能動的な姿勢が見られたことは、本事業が波及的に大人の当事者意識をも喚起したことを示している。

第7章:成果の評価と課題

7.1 属性別ニーズの充足度

- 高校生: 実践的な学びと自己実現の場として機能。
- 高校生以外: 地域課題解決のヒントと、多世代協働によるコミュニティ再生の場として機能。

7.2 今後の課題

一般参加者からの「情報伝達の課題」の指摘を重く受け止め、次年度は広報媒体の多様化（回覧板、広報誌等）を図る必要がある。

結論

本事業は、属性ごとに異なる教育的・社会的価値を創出した。高校生にとっては自己効力感と責任感を育む「成長の場」となり、大人にとっては地域への誇りを再確認する「共創の場」となった。公的資金による支援は、これら多世代の意識変容を繋ぐ極めて有効な触媒として機能したと言える。

本事業は、オートレースの補助を受けて実施しました。

引用文献

1. 水窪・天龍村ツアー2025（回答）
2. 第15回 天竜区の未来を考える若者会議アンケート（回答）
3. 第14回 天竜区の未来を考える若者会議アンケート（回答）
4. 第16回 天竜区の未来を考える若者会議アンケート（回答）